

週日の説教

金 大烈 神父 2011年9月3日(土)

《貧しさも恵み ～祈りの機会になれば・・・～》

今日の福音(ルカ 6・1-5)を読みますと、イエス様は結構貧しい生活をしていたことが分ります。食べる物がなくてお腹がすいても、お店で食べることはできなかったのでしょう。弟子たちが、他の人の麦畑の中に入って麦の穂をもんで食べるくらい、経済的に難しい生活をなさったのではないかと思います。そしてご自分でも「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない。」(ルカ 9・58)という表現をなさいました。

もしイエス様のような能力、病気の人を癒す能力を持っている人が今の時代に生きていれば、その人は、たぶんこの世の中で一番金持ちになれるでしょう。お金をたくさん持っている人が病気にかかり、癒してほしいと頼んだ時、ただで癒してあげても相手は感謝しながら何とかしてお礼をしようとするのが当たり前でしょう。そのように考えてみれば、イエス様は結構金持ちになれる状況の方だったはずですが。それなのに、「自分の頭を置く枕さえない」とおっしゃったのは、お金について徹底的にこだわらない方だったということでしょう。更に、生まれる時は人に借りた馬小屋の飼葉桶の中で生まれ、亡くなる時は十字架の上でした。そして葬られたのも自分の墓ではなくて、他の人が自分の墓にしようとしていたところでした。結局、生まれる前からこの世を去られるまで、自分のものはほとんど持っていなかったということです。そして、それは仕方なく貧しかったのではなくて、本当は誰よりも優れた能力を持っていたのにも関わらず、「あなたが本当に救いを望むのならばこのような生き方、このような心、このような精神を持たなければ、救いは絶対得られない」という模範を示すために貧しくなったのです。

私たちが経済的に困る時が結構あります。ここにいらっしゃる皆様にもそういう経験はあると思います。そしてこれからもお金のために人が嫌いになったり、難しい関係になったり、敵になってしまったりすることがあるのでしょう。しかし、「み旨に従います」という告白が出来ている私たちならば、もし経済的に困っても、「こういう貧しさのためにあなたにもう一回祈る機会が与えられて感謝します」という心を持つべきだと思います。

手に握っているものがたくさんあれば、どうしてもその手に目が注がれます。だからイエス様が、「金持ちが天国に入るのはラクダが針の穴を通るより難しい。」とおっしゃっているのです。イエス様は、実際にはラクダを針の穴に通すことができる能力を持っている方です。それなのに、このような表現をなさったのです。

ある意味で、貧しさから生まれて、貧しさに帰るのが人生です。その間に、手に握ろうとするものが自分の靈魂にふさわしくない、邪魔になるものならば、捨てたほうがよいのでしょう。富より貧しさのほうがよいのでしょう。もちろん、誤解しないでください。富は一生懸命に頑張っ

べきものです。しかし、それが全部ではないことを意識してほしいのです。

人々がうらやましがるくらい、たくさんお金を持って、たまにはヘリコプターで東京へ往復するくらいの能力があれば最高でしょう。しかし、それができるようになったその日に、イエス様が呼びかけるかもしれません。それが人生です。

貧しさ自体は、決してよいものではありません。しかし、貧しさを避けるためにもっと悪いことをしてはいけません。逆に「貧しくて困っていることによりイエス様に目を注ぐことが出来れば、本当に恵まれている」と思います。

今の時代は、お金がなければ何もできません。人としても認められないくらいの時代になっています。しかし、皆様はそのような目で人を見てはいけません。そのような目で関係を持つてはいけません。お金があるかどうかの問題ではなくて、その人自身が持っている尊さを見ようとする心があれば、皆様も尊いものとして認められます。

ありがとうございました。